

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/sod>

乳がんというひと昔前は乳房を完全切除しなければならぬ、女性にとつて深刻な病気でした。今は、温存療法や、切除後の豊胸など、さまざまな選択ができるようになりました。また、自己チェックに始まり、マンモグラフィ、X線などの検査で早期発見、早期治療もできるようになりました。しかし、これら医療の発展の裏には、乳がんにかかる女性が急増していることを見逃してはなりません。

その数は50年前の倍に増え、いまや日本人女性がかかるがんのトップの座を占めています。もともと乳がんは欧米女性に多くみられ、日本人の発症率はアメリカ人の4分の1から7分の1でした。ところが、生活の欧米化と共に急増し続け、昔はホルモンバランスが崩れる40代以降に発症することが多かったものが、最近、30代にも広がりを見せています。今回、丹羽先生には、そんな乳がんの原因、治療法、危険度などを伺ってきました。

■乳がんは無罪放免はない■

最近、どうも乳がんにかかられる女性が増えているような気がするのですが、乳がんとはどのような病気ですか？「乳がんというのは奥が深い病気です、とても一言では語れない。だから、今回はまずそのさわりだけ話しましょう。」

まず普通のがんは、手術をして腫瘍がすべて取り切れて、その後、5年間、再発しなかったら無罪放免。しかし、乳がんは10年、20年、30年たつても無罪放免はない。30歳のときに手術で取り切ったがんが、70歳になつてから再発したりするものなんだ。それと、普通のがんは転移のコースが決まっていなければならないけれど、乳がんだけはコースが決まっている。腫瘍を取った後、乳房のまわりのリンパ腺、次に骨に転移する。ここまでは致命的にはならない。しかし、次に肺と肝臓に転移すると、これは

特集 丹羽療法 治療レポート

乳がん ターニングポイントは50歳 要注意のホルモン治療

もう致命的になる。99%このコース以外には行かない。たいてい肝臓がんで死に至るけれど、肺にきて、しばらく頑張ると最後は脳にくる」

かかるのはやはり女性ですよね。

「99%女性。ただ、男性もなりますよ。うちにも3人くらい男性患者さんがいる。一般的に女性しか女性ホルモンが出ないと思っている方が多いみたいだが、男性も女性ホルモンを作っている。ただ、その量のバランスが女性とは違うということ。女性ホルモンにはエストロゲン（卵胞ホルモン）とプロゲステロン（黄体ホルモン）という二種類がある。この女性ホルモンが過剰になつて乳腺を刺激することから乳がんができる」

「近年、増加傾向にあるのはどうしてでしょうか。昔、日本人は肉や乳製品をほとんど食べなかった。その頃は生理がもう終わつてしまった女性に乳がん患者はあまりいなかった。ところが、終戦後、欧米の食生活になり始めてから、生理が終わつてしまった女性の乳がんが出てくるようになったんだ。どうしてかと言うと、肉や乳製品を食べると、自

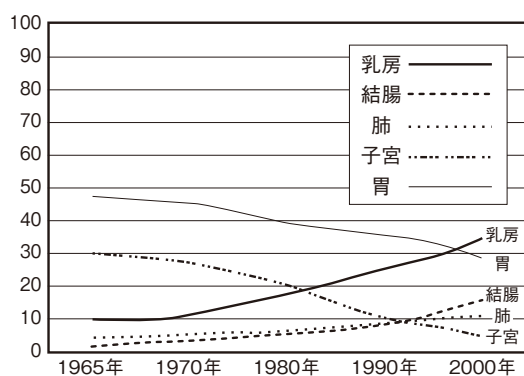
分の体内では女性ホルモン、卵胞ホルモンを作らなくても、食べた肉が副腎に行つて女性ホルモンに変わるんですね。自分は作らなくても、食べた物からできてしまうわけ。また、アメリカは肉食社会で、環境汚染、ダイオキシンの汚染もひどいから、それが卵胞ホルモンに作用して、乳がんの患者がものすごく多い。アメリカの乳がん患者は中高年の十人に一人の割合でいる。これはすごく高い割合だね。あと、最近、日本で、70、80歳のお年寄りの乳がん初発、再発がぞろぞろいるんです。これも若い人だけじゃなく老人も肉を食べているということですね」

■ホルモン治療の大きな間違い

治療法は？

「この話になると、第2部ですね（笑）。折々、くわしくお話しするが、今回は、ホルモン治療の話。乳がんの治療に女性ホルモンを抑えるために

◇ 女性のがん罹患率 ◇



厚生省『成人病のしおり』より

男性ホルモンを2年くらい飲ませるんです。この方法は、生理のある若い女性には卵胞ホルモンを抑えるのに効果的。だけど、50歳すぎて生理が止まっている女性にも男性ホルモンの治療をしているのが現状の日本の病院なんです。僕から言わせるとそれはとんでもないこと。だいたい、50歳すぎた女性には肉、乳製品さえ食べなかつたら卵胞ホルモンはできないのだから、男性ホルモンの治療はいらないんだ。うちに来た患者さんには、そんなもんいらぬ、飲むなと言ってます。でも、そこらの医者とはみんなそんなことを知らないから、50歳すぎた女性に男性ホルモンを飲ませている」

50歳すぎの方が飲まれると、どうなるんでしょうか。

「男性ホルモンはあんまり飲ませると卵巣がんになる。これも膨大な治療をしている中で発見したこと。乳がんは卵巣には転移しないのにどうも乳がん履歴患者に卵巣がんになるのが多いと思ったら、案の定、50、60歳のおばさんが医者から言われたというので一生懸命に男性ホルモンを飲んでいったんだ」

あの、美容や、更年期のために女性ホルモンを活性化するサプリやドリンクを飲んだりするのはどうなんでしょう。

「どうでもいいようなサプリなら毒にも薬にもならないからいいけど、ホルモン剤を飲んだり打ったりするのはあかん、あかん。そんなものやる

ものじゃない。例えば命に関わる前立腺がんの患者さんには、ホルモン療法は効果的だけど、普通の人間が、美容にという理由でホルモンをいじっちゃいかん。ホルモンは自然のバランスが一番。外から操作するものじゃない。さっきも言ったように、50歳すぎて女性ホルモンが出なくなつた乳がんのおばさんに男性ホルモンを飲ませたら、卵巣がんを誘発するわけだから、ホルモンというのは怖いものなんです。あと、よく、生理がしばらくないという若い女性がホルモン剤を飲んで治療していると言っているのも論外。だいたい、若い女性が生理不順なのは当たり前のこと。ストレスだつてあるだろうし、そんなもの放つておいたらそのうち治る。半年くらい生理が来ないくらいであわてちゃいかん。生理というのは、子供を産むためにあるもので、すぐに子供を産む必要がないんだから、無理することはない。ということであとは次回。温存療法の話などをしましょう」

50歳をすぎて、生理が終わつてからのホルモン治療の間違いのお話など、今回も目から鱗のお話を伺うことが出来ました。

先生からのご提案で、この乳がんのお話は、いづれ一冊の冊子にしようということになり、今年、研究会から出版する予定であります。乞うご期待を。

SOD 愛飲者インタビュー

月の半分は寝込むほどの体質が SOD で生まれ変わった

子宮内膜症・虚弱体質 姉崎華奈子さん (28歳)

子供の頃から虚弱体質で疲れやすく、病気がちだった華奈子さん。思春期になるとその体質に生理痛が加わり、動けなくなるくらいひどかった。また、常にヒザ下にしびれがあり、20歳すぎくらいからは足の裏が絶えずひび割れている状態で、痛くて足に力を入れたり、走ったりすることもできなかった。

「排卵痛と生理痛で、月のうち半分はお腹が痛く、生理中の3日間はいつも寝込んでいました。とにかく、痛みでじつとしていられなくてのたうち回っていたんです。それに加えて疲れやすい体質で、身体におもりがついているんじゃないかと思うくらい身体が重くなるんです。体育会系の元気な友人たちがうらやましかったですね」

普通、そこまで体調が悪いと産婦人科に行つて相談するものだが、高校生と言う、羞恥心のほうが勝つていた年頃の彼女には、産婦人科で検診すると

いうこと自体に大きな抵抗があった。「恥ずかしいのと怖いので、ずっとがまんしていたんです」

そうして10年。結婚、妊娠という頃になってようやく産婦人科の先生に診てもらった。25歳のときのこと。

「卵巣腫瘍になっていたから手術しないといけない、といわれたんです。もともと子宮内膜症が原因で生理痛がひどく、その内膜症が腫んでひどくなっているから手術をしないといけない。お腹の子供も危険だ、というようなことを言われたんです」

ここ10年の間に医者との関係は急速に変化している。昔はセカンドオピニオンなんかとんでもないと言われ、医者の言うことに反論できない雰囲気だった。今は、インフォームドコンセント(治療の内容などに対して十分な説明を受け、患者側がそれを理解したうえで同意すること)、セカンドオピニオンは当たり前になってきた。彼女も、開腹手術、という性急な判断に疑問を感じ、セカンドオピニオンを試みた。

◆丹羽先生診察ご希望の方は 御紹介、御予約いたします。

丹羽メデイカル研究所

Tel 0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

Tel 03(5787)3498

まで お電話ください。

「別の病院に行つたら、お腹を開くなんてんでもない。様子をみて、悪化するようなら考えようと言われ、そのまましばらくしているうちに本当に腫瘍が小さくなり、無事、出産することが出来たんです」

とはいえ、虚弱体質と生理痛、ひび

割れが治ったわけではなく、月のうち半分は育児、家事を実家の母親にお願いしなければならぬ状態だった。

「あんまり頻りに子供を預けていたの
で、子供はおばあちゃんの家が自分の家だと思っていたんじゃないかしら(笑)」
そんなときに整体の先生からSOD
を勧められた。

「うちは母も具合が良くないもので、親子揃って昔から健康食品には目がないというか、いいと言われたらとりあえず試します。だからSODもそんな調子で試したんです。飲み始めて3ヶ月ほどしてからかな。気づいたらあれ？ということが増えていくんです。例えば、いつも寝込んでいたのに今月は起きていられる。身体が重くない。保湿クリームを毎日塗って治らなかつたひび割れが治っている、という感じ」

一日3袋。生理痛がひどいときは5袋、これを欠かさず続けた華奈子さん。飲み始めて2年が過ぎた。その間、丹羽先生の本を何冊も読み、会報や冊子、チラシなども隔々まで目を通し、今ではすっかりSOD通。

「初めはSODのおかげというのに気づかなかつたんですが、2、3日飲まないとお調子が悪くなるので、あ、これはやっぱりSODのおかげだって。子宮内膜症にはSODとめかぶや生わかめがいいですよ。ええ、SODは一生続けます。本当にSODを開発してくださってありがとうございます。めかぶとわかめを組み合わせるとはさすがです。ありがとうございます。これからもお元な家庭を。」

SOD様作用食品とは。 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとつたもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が

存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害(公害、薬害、食品添加物の害)などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。

それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。



開発した丹羽耕三医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときに、ご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。

開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです

あしたも元気 (No 85)

食中毒の原因

冬場(12月～3月)は、細菌性食中毒が多く発生するといわれています。

最近では「ノロウイルス」の発症がとても多いようです。

食中毒は集団感染だけではなく、家庭においても十分起こり得ることですのできちんと予防対策をしていく必要があります。

ノロウイルス

汚染された食品を食べた場合や、人から人への感染があります。

潜伏期間は約30時間で、下痢や嘔吐の症状がでるようです。

原因は生カキなどの貝類からと言われていますが、これらを調理で扱う場合に気をつけていれば、食中毒は起こることはないで以下のことについて注意をしましょう。

★流通しているカキには「生食用」と「加工用」があります。

「加工用」は必ず加熱調理をしましょう。

「生食用」でも一度開封したものは必ず加熱調理をしましょう。

★加熱は【中心部まできちんと加熱。85度、1分以上！】

カキフライや鍋物はきちんと加熱してあります。

★調理する前やカキを触ったあとはすぐに手を洗いましょう。

その他の食中毒

＜サルモネラ菌＞

鶏、豚、牛などの動物の腸管に分布しており、サルモネラに感染されている肉や卵が原因。

＜病原性大腸菌＞

土壌、下水、動物や人間の便など自然界に広く分布しており、糞便に汚染された食肉の二次感染によりあらゆる食品が原因。

＜腸炎ヒトリオ＞

魚介類、海水程度の塩分(約3%)を好み、魚介類の刺身やお寿司類、二次感染された野菜の一夜漬けなどが原因。

＜黄色ブドウ球菌＞

化膿キズ、鼻腔、喉、皮膚、腸管などに分布し

ており、殻類やその加工品に多い。

＜ウェルシュ菌＞

水、土壌、特に食肉に分布しており、肉類、魚介類、野菜が原因。

食中毒予防のポイント

【食品の扱い方】

●肉、魚、卵、野菜などの生鮮食品は、新鮮なものを使うこと。

●肉、野菜、卵を扱うときは、その前後に必ず石鹸で手を洗い、流水でよく流すこと。

●魚介類は調理前に水道水(真水)でよく洗い流すこと。

●食品に消費期限の表示があるものはきちんと確認すること。

●肉や魚を購入したときは、肉汁や魚の血や水分などが漏れないよう、ビニール袋に入れること。

●温度管理の必要な食品はすぐに冷蔵庫、冷凍庫に入れること。

(冷蔵庫10度以下、冷凍庫マイナス15度以下)

【調理器具の扱い方】

●肉、魚などを切った包丁やまな板は必ず洗ってから他の食品を切る。

まな板は生食用と、その他食品のものに分けるとより安全。

●包丁、まな板、食器、布巾、スポンジ、たわしは洗剤で洗い、十分に水で流すこと。

●熱湯消毒をすること。

【調理の注意点】

●加熱調理を行うことで食中毒の菌を殺菌することができ。

目安は中心部が75～85度、1分以上の加熱！

●調理中に中断するときは、室内にそのまま置いておかないで冷蔵庫に入れること。

●加熱調理したものはできるだけ早く食べる。

●一度に大量の米飯や麺類を作り置きせず、必要量だけを調理すること。

●残った食品を保存するときは清潔な容器に小分けして、十分冷ましてから冷蔵庫や冷凍庫に保存すること。

●残った食品を温める場合も75度以上を目安に。汁物は沸騰させること。

※調理の前は必ず手指を洗淨、消毒し、途中トイレや鼻をかんだ場合でも手を洗いましょう。

また、下痢や嘔吐の症状がある場合は調理を避けた方が安全と言えるでしょう。

【栄養士 高橋広海】

丹羽博士の著書

丹羽博士の、一般向けの著書の一部を紹介いたします。活性酸素と病氣、SODについて、平易に書かれています。

「安心の医療・本当の健康」 (みき書房)

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」 (日本SOD研究会)

「クスリで病氣は治らない」 (みき書房)

「白血病の息子が教えてくれた医者の心」 (草思社)

「活性酸素で死なないための食事学」 (廣済堂)

「丹羽博士の正しい『アトピー』の知識」 (廣済堂)

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」 (廣済堂)

「医は仁術なり」 (致知出版)

「丹羽療法『全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由』」 (リヨン社)

「新刊」『がん治療 究極の選択』 (講談社)

「SOD様作用食品の効果」 (小冊子)

リーフレット全20巻



SOD関連出版物一覧

バックナンバーについて

日本SOD研究会では、これまでに発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。

ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会

TEL 〇三二五七八七三三四九八

までご連絡ください。

丹羽SOD様作用食品

